

倉本将汰 「海田町こども議会」から政策提言を  
～海田町こども議会パワーアッププラン～

私は、こども議員の海田西中学校の倉本将汰です。私は、「海田町こども議会」を、こども議員みんなで「政策提言」を考え、海田町といっしょに、その政策を実行するものに発展させる、「海田町こども議会パワーアッププラン」を提案します。

選挙権年齢が 18 歳に引き下げられ、昨年初めての参議院議員選挙が行われました。

私は、海田町の若い人が、政治にどのくらい関心を持っているか、昨年の「参議院議員選挙」の投票の状況を調べるため、海田町選挙管理委員会の方にお話を伺いました。

それによると、海田町の 18 歳の投票率は、約 39% 19 歳の投票率が約 34%でした。広島市と比較してみると、18 歳で 44%。19 歳は約 34%だったので、海田町の 18 歳、19 歳の投票率は、周辺の地域と比べて、あまり高くないということがわかりました。

このことから、私たち一人ひとりが、もっと政治に関心を持つことが大切だと感じました。

特に、私たちの町である海田町について、中学生の私たちの視点で、まちづくりに関わっていく、よい方法がないかと考えました。

そこで私は、社会科の教科書で紹介されている、やまがたけん ゆぎまち 山形県遊佐町の「少年議会」の担当の方にお話を伺いました。遊佐町では、2003 年から「少

年議会」を開催し、昨年度で 14 期続いているそうです。

遊佐町の「少年議会」の特色は、少年町長と少年議員を立候補者の中から、町内の中高生が投票をして選挙で選ぶことです。さらに「少年議会」は、独自の 45 万円の政策予算を持っていることです。

「少年議会」は 8 月に開かれ、町への要望の「一般質問」と「政策提言」の二つに分かれています。一般質問では、海田町のこども議会のように、通学路の街灯の設置や、学校のバリアフリー化などが提案されます。

私がなにより興味を持ったことは、「政策提言」についてです。7 月から 8 月にかけて、政策をつくるために何度か少年議員が集まり、政策をつくるそうです。これまで、「若者の視点から遊佐町を P R する企画」や「老人ホームへの訪問などの、<sup>せだいかん</sup>世代間の交流」、また、「地域の特産品の P R 販売」などの政策が提案され、実際に行ったそうです。

私は、遊佐町の「政策提言」のやり方を、ぜひ「海田町こども議会」でもやってはどうかと思いました。

昨年度のこども議会では、西中執行部の先輩が、「海田まるごとひまわりマルシェ」や「海田ひまわりロードの設置」を提案をしました。この提案は、海田町役場の方の協力を得て、海田町シルバー人材センターの方や、海田のひまわり屋さんといっしょに、「海田きん祭・よりん祭」で、実現することができました。

この議会で提案したことが、質問しただけで終わらず、実際に実現できたことは、自分たちが、地域の方といっしょに、海田町のまちづくりに参加し、役立てたと実感し、満足感と達成感いっぱい、すばらしい体験だったと聞きました。

私たちが、質問や提案を長い時間をかけて準備したことが、何か一つでも、実現できることは、とてもうれしいことです。何より海田町のまちづくりに、自分たちが参加しているという気持ちになれると思います。

このことから私は、「海田町こども議会パワーアッププラン」として、次の二つの提案をします。

一つ目は、「海田町こども議会」は、「一般質問」と「政策提言」の二つとする。「政策提言」は、こども議会にあわせて、こども議員みんなで考え、海田町こども議会に提案する。

その政策を実現するため、内容や実施のための費用など、海田町の方々の助言や協力をおねがいする。

二つ目は、この政策提言の作成にあたり、海田町のまちづくりについて、小学校の高学年と中学生を対象とした「海田町まちづくりアンケート」を実施する。

アンケートの結果は、政策提言に活かし、結果は、町内の児童や生徒、保護者に紹介する。

アンケート結果が、海田町のまちづくりに、少しでも取り入れられれば、小中学生の、地域や政治への関心がより高まるのではないかと考えます。

以上、二点を私は提案します。

#### 【再質問】（予定）

若い人の選挙の投票率を上げるための、今後どのような具体的な取り組みを考えているか教えてください。